

新しくなった“骨密度測定装置”で 骨粗しょう症の診断がより正確に

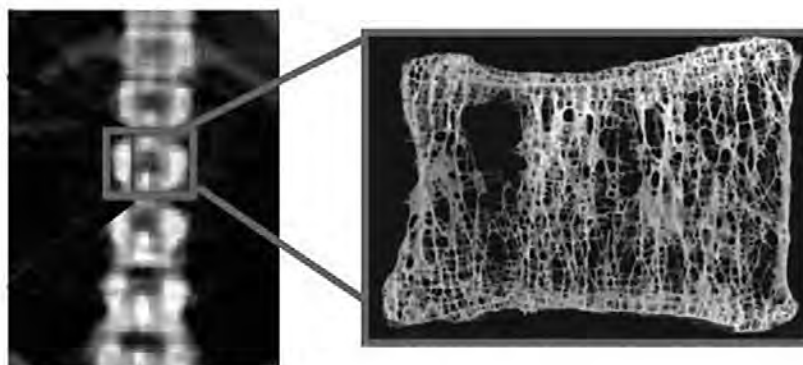
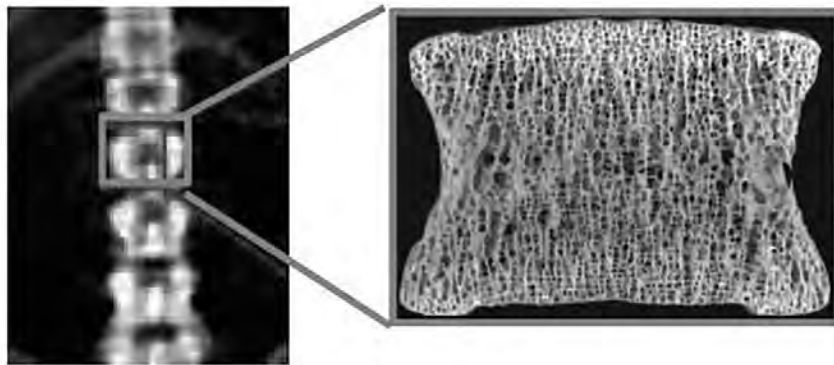
令和5年4月に導入されたこの装置は、主に骨粗しょう症の診断に使用される装置です。骨粗しょう症は、「骨強度の低下を特徴とし、骨折の危険性が増大する疾患」と定義されています。骨強度とは、骨密度と骨質という2つの要素から成ります。骨密度とは骨に含まれるカルシウムなどのミネラルの量、骨質とは微細構造、骨の代謝、微小骨折、石灰化などの状態から判断されます。一般的に行われている骨密度検査は、X線を使って腰椎や大腿骨近位部の骨密度を計測します。従来、骨粗しょう症は骨密度の低下のみで考えられてきましたが、近年 骨質（骨内部の微細構造）と合わせて評価することが重要視されています。今回導入された骨密度測定装置は、骨密度と骨質の両方を評価することが可能となりました。図が骨質評価の例です。上が正常な骨で内部が網目状で構造が密な状態、下が骨粗しょう症の骨で内部がまだらでスカスカな構造が疎な状態なのが見て取れます。今後骨粗しょう症の診断に、骨密度と骨質の双方を計測することで、より正確な骨の状態評価が可能になりました。

骨密度検査は、当院受診やドック健診で受けることができます。

詳細は、日野病院までお問い合わせください。

健常人:

Well-structured trabecular bone



骨粗鬆症患者

Altered trabecular bone